

福島市子どもたち（前列）と振り付きの楽しいステージを披露する「とも」のメンバー



復興願う歌声こだま

福島で「県おかあさん合唱祭」

50回の節目に花添える

福島市音楽堂で十二日に開かれた第五十回県おかあさん合唱祭では、米国ニューヨークの日本人らによる混声合唱団「ジャパン・コーラル・ハーモニー」が一年ぶりに県おかあさん合唱連盟のメンバーと共演した。日米の国を超えて本県復興を願う思いを一つにした。

「とも」はプログラムの最後に登場。「ラ・タラ」や「クスノキ」「瑠璃色の地球」など六曲を奏でた。福島中央子ども劇場の小中学生二十四人と共に、闘牛士を主人公とした「トレロ・カモミロ」をかわいらしい振り付きで歌い、会場を沸か

せた。本県の再生を願い、俳人の黛まどかさんが作詞し、千住明さんが作曲した「そして、春は福島から世界へ」を会場全員で合唱した。黛さんも「とも」の一員としてステージに立った。

演奏後、福島民報社の高橋雅行社長が「とも」のメンバーに歓迎と感謝の言葉を述べ、ニューヨークを訪問した県おかあさん合唱連盟のメンバーに「うつくしま復興特別大使」を委嘱した経緯を説明。「両者の絆と友情のハーモニーに感動した」と語った。

三宅祐子県おかあさん合唱連盟会長は「とも」の皆さんが五十回という節目に大きな花を添えてくれたことに感謝したい」と話し、「とも」の音楽監督を務める白田正樹さんは「福島県の皆さんに温かく迎えていただけ、うれしい。福島とニューヨークの絆をこれからも大切にしていきたい」と語った。



あいさつする高橋社長